

わかし特異的入網

ブリは出世魚として知られ、静岡県では体重により、もじゃこ(0.05 kg以下)、わかし(0.05~0.5 kg)、いなだ(0.5~2.0 kg)、わらさ(2.0~6.0 kg)、ぶり(6.0 kg以上)と銘柄分けされています。本県では定置網による漁獲量が多く、伊豆東岸定置網では、冬~春はぶり、わらさ主体、夏~秋はわかし、いなだ主体に漁獲されます。例年、ぶり、わらさは数百tオーダー、わかし、いなだは数十tオーダーなのですが、2019年は“わかし”の漁獲量が100トンを超え特異的な入網となったので、その状況について報告します。

2019年のわかし漁獲量は114t、前年比6.6倍、平年比5.7倍と前年、平年を上回りました(図1)。月別に見ると、2019年は例年漁獲量の少ない11月に最も漁獲量が多く、51.2t、前年比25.2倍、平年比31.1倍と特異的な入網となりました(図2)。また、漁場別に見ると伊豆山、古網など北部(相模湾奥)の漁場に集中的に入網していました

(図3)。漁獲されたわかしは、入網が見られ始めた7月は尾叉長30cm以下主体、8~12月は35~40cm主体でした(図4)。わかしは単価が低く、特に30cm以下のわかしは売り物にすらならない雑魚扱いになるため、漁場によっては操業時に網で掬って放流したり、海面生簀で蓄養して大きくし魚価を向上させたりといった対応をしていました。

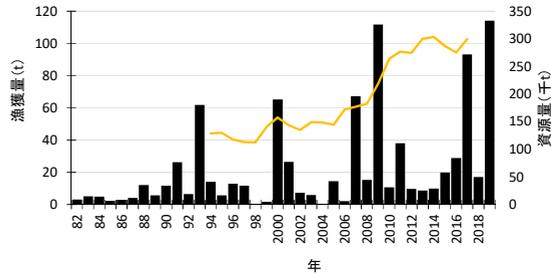


図1 わかし漁獲量の推移(折れ線はブリ資源量)

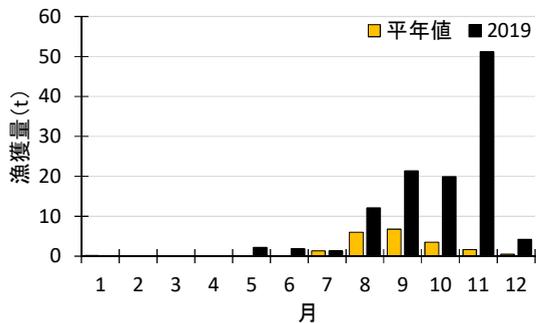


図2 2019年のわかし月別漁獲量

図1を見ると、これまでも2019年と同様にわかし漁獲量が多い年(1993年、2000年、2007年、2009年、2017年)があり、分場だより282号では「わかしの大漁」として2000年の大量入網について考察しています。それによると、2000年は8月に最も漁獲量が多く、伊豆東岸では川奈以北が主漁場となっており、2019年と比較すると、漁場は共通点がありますが、盛漁期は異なっていました。これは、2019年は2000年に比べてブリ資源が好調であること、黒潮が大蛇行流路であることなど、資源や海況の違いが影響しているのかもしれない。

以上、わかしの特異的な入網について述べましたが、わかしが多い=ぶり大量入網!は期待できるのでしょうか?2004年に伊豆東岸定置網において、ぶりが大漁となりましたが、2004年はわかしの大量入網があった2000年の4年後にあたります。分場だより297号では「ぶり大漁!」として紹介されており、このぶりは2000年級群(2000年のわかし)が中心であったと分析しています。伊豆東岸定置網へのぶりの入網は、資源状態だけでなく海況にも大きく影響を受けるため、一概には言えませんが、2019年のわかしが4年後にぶりとして再び伊豆東岸に來遊することを期待したいです。

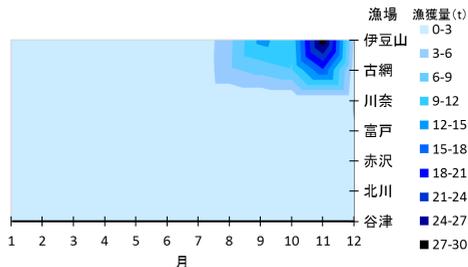


図3 2019年のわかし月別漁場別漁獲量

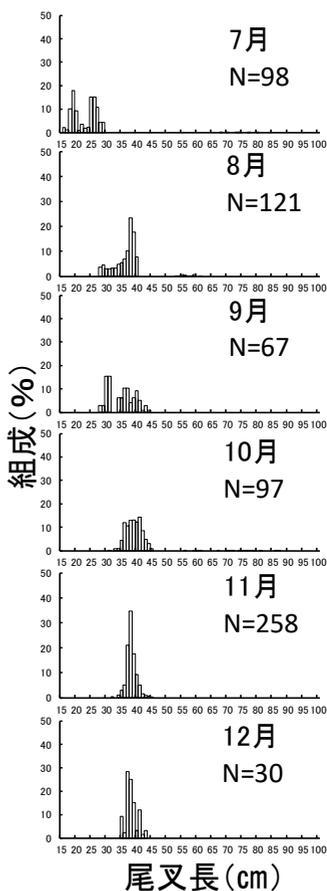


図4 伊東魚市場におけるブリの月別体長組成(2019年7~12月)

(鈴木勇己)